

04.

用語・診断委員会

用語・診断基準委員会
50年記念誌に寄せて

貴田岡正史

(公立昭和病院内分泌代謝科)

まず、超音波医学会における診断基準策定と用語の検討について歴史的経緯を概観したい。用語・診断基準委員会の果している機能についてみると、従来は超音波医用機器に関する委員会が機器の規格の設定及びこれに関する超音波医学用語を職掌しており、医用超音波診断基準に関する委員会は、各種疾患に関する超音波診断基準を設けることを職掌としていた。

八木晋一会長（平成8年～10年）が在任中に、同会長より機構改革の諮問を受けた企画委員会（平田経雄委員長）がこれまであった「超音波医用機器に関する委員会」と「安全委員会」を統合し、「機器および安全に関する委員会」と名称を改め、同委員会の職掌を「超音波医用機器の性能の向上と普及を図り、使用上の安全性を確保するために、機器の規格の制定、並びにこれらに関連する諸問題を検討すること」とした。一方、これまで「超音波医用機器に関する委員会」の職掌であった用語の検討については、職掌を「医用超音波診断基準に関する委員会」に移し、委員会名称も「用語・診断基準委員会」と変更した。同委員会は平成10年9月11日付けで発足した。

参考までに別表1に各委員会の歴代委員長を呈示した。

医用超音波用語集の編集と改訂

医用超音波用語集は平成6・7年度超音波医用超音波機器に関する委員会（伊東正安委員長）に

より、平成7年にそれまで制定された282語を分類、整理し分類記号と番号を設けて検索を容易にする形で編集され、平成8年3月に発行された。その後平成10・11年度用語・診断基準委員会（名取博委員長）により平成11年6月に第2版が完成した。その後5年経過した平成16年3月平成14・15年度用語・診断基準委員会（岡井崇委員長）により第3版が刊行された。第3版は大幅な改訂となり、版を小さくし、それまでの領域別編集を50音順の配列に変更し辞書としても活用できるようになった。本編集には小生も委員として参画した。5月の連休を返上することになったが、都内のホテルに籠り作業に集中できたのは得難い経験であった。第4版は平成16・17年度用語・診断基準委員会（田中幸子委員長）により第1版が発行されて10年目にあたる平成17年12月に発行された。掲載用語数は初版の282語より659語と大幅に増加した。本版より本学会のhome page上に用語検索システムとして搭載され、また本学会会員はPDFファイルとしてダウンロード可能になっている。

また改訂作業も随時web上で進められている。

診断基準の策定

診断基準は各領域別・課題別に小委員会が組織され診断基準案を作成、そのうえで用語・診断基準委員会で検討し理事会承認をへて診断基準案として広く公開される。公示されて6か月経過後、よせられた意見を反映した修正を行ったうえ最終

案として理事会の議を経て診断基準として公示されてきた。

下記に現在までの診断基準と策定時期を示した。

診断基準の策定

膵癌診断基準

(跡見裕委員長) 平成8年7月15日

肺癌の胸膜浸潤の超音波診断基準

(名取博委員長) 平成8年7月15日

甲状腺結節(腫瘤)超音波診断基準公示について

(植野映委員長) 平成11年3月1日

卵巣腫瘍エコーパターン分類

(赤松信雄委員長) 平成12年6月1日

縦隔腫瘍エコーパターン分類

(名取博委員長) 平成14年4月29日

胆嚢癌の超音波診断基準

(渡邊五朗委員長) 平成14年4月29日

超音波胎児計測の標準化と日本人の基準値

(赤松信雄委員長) 平成15年3月15日

乳腺疾患超音波診断のためのガイドライン —腫瘤像形成病変について—

(植野映委員長) 平成17年7月15日

心機能指標の標準的計測法とその解説

(林輝美委員長) 平成18年5月15日

新生児・乳児の股関節脱臼

(瀬本喜啓委員長) 平成18年5月15日

眼科領域の超音波画像表示と計測のための検査指針

(菅田安男委員長) 平成19年3月15日

下肢深部静脈血栓症の標準的超音波診断法

(西上和宏委員長) 平成20年1月15日

超音波による頸動脈病変の標準的評価法

(松尾汎委員長) 平成21年4月15日

甲状腺結節(腫瘤)超音波診断基準

(宮本幸夫委員長) 平成23年12月15日

肝腫瘤の超音波診断基準

(熊田卓委員長) 平成24年5月15日

本稿を終えるにあたり、本学会事務局に貴重な過去の資料の提供をいただいたことに感謝したい。